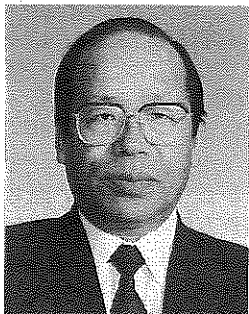


# 栃木県中学校長会報

平成11年9月10日 発行 第91号  
栃木県中学校長会広報部

## 会長あいさつ



栃木県中学校長会  
長 宇都宮市立一条中学校  
校長 高 梨 眞佐岐

現在進行中の教育改革は、ここ数年急ピッチで進められており、学校教育の在り方についても、根本から問いなおされよ

うとしております。最近の動きだけを見ましても、昨年の7月29日の教育課程審議会の答申に引き続き、9月21日には、中央教育審議会の「今後の地方教育行政の在り方について」の答申が出され、12月には、新しい学問指導要領が告示されております。

そして今年7月には、平成14年の完全実施に向けての移行措置要領が告示されるなど、教育改革の動きは、国レベルから学校現場へと確実に移ってきております。

学校における教育改革の実現のためには、制度や法の整備も大切ですが、何よりも学校現場の実現に向けての真剣な取り組みがないと達成が困難であります。

このような時期に、学校経営に当たる校長は、自らの教育理念を明確にして、率先して改革に取り組むリーダーシップが強く求められております。

先の中教審答申でも、校長の教育理念のもとに学校が組織的に機能するように、学校の組織の見なおしを求め、校長のリーダーシップの発揮を強く求めているのは、そこにあらうかと思えます。

校長のリーダーシップは、校長の学校経営についての思いを明確に示し、職員にその実現に向けての意欲を喚起するものでなければなりません。

このような変革の時期に学校経営を担う立場にある校長の責務は極めて重いものがあります。

教育の大きな転換期において、校長としてどうあればよいのか、今年度の総会において所信の一端を述べさせていただきましたが、

1. こうした時期にある校長は、今後の教育の

目指す方向を十分に見極めると共に、学校の現状と改革を進めるに当たっての当面する課題を十分把握した上で、職員に確かなビジョンを示していくこと。

2. 学校全般に渡り見なおしを図り、実態を踏まえた改革を進める中で職員の意識改革を積極的に図っていくこと。

3. 開かれた学校、特色ある学校づくりを目指して、地域や保護者と一体となって取り組む体制づくりを推進していくこと。

などが大切と考えております。

さて、今日のように課題の山積している時代に、学校経営の責任者として自らの職務を全うすることは、容易なことではありません。

学校経営に地域や保護者の要望・意見をどのようにして取り入れ生かしていくべきか。新しい教育課程の平成14年度全面実施に向けて、どのような体制のもとに準備を進めていくか。総合的学習の時間は、選択教科の拡大の問題はどうしていくのか等々。各学校が今後取り組むべき課題は数多く、しかも、その対応はどれ一つとっても簡単なものではありません。

最終的には、自らの判断で事を決する立場にある校長としては、どう判断し進めていくべきか、苦しみ、時には孤独感を感じることもしばしばであります。

このような中で、校長会の果たすべき役割は大きなものがあります。

校長会としても、変革期にある学校教育について十分論議を尽くし、研修を深めること、それぞれの学校の取り組みや対応についての情報交換を蜜にし、各学校の経営に役立ることなどは今後とも大切にしていかなければならないことであります。

また、新しい教育課程の実施に向けての条件整備等についても、各学校の意見を参考にしながら関係機関等へ積極的に働きかけを行って参りたいと考えております。

現在の中学校教育は、多くの課題に当面しておりますが、私どもは一体となり、校長としての使命感に徹し、本県中学校教育の充実発展のため努力して参りたいと考えております。

### 日本人の気質



栃木県中学校長会副会長  
宇都宮市立城山中学校  
校長 阿久津 義正

キリスト教伝来450年を記念し、各地で「ザビエル展」が催されているが、著名なザビエル研究家ピーター・ミルワード

は、ザビエルが書いた手紙をもとに「ザビエルの見た日本」を著している。その著書の中で彼は、450年たってもさほど変わっていない日本人の気質を、そして、戦後45年の間で本質的に変わってしまったことについて述べている。

ザビエル時代とさほど変わっていない日本人の気質とは、好奇心が旺盛である、という点である。今日でも、学術的な世界で優れた研究に携わる者や実業界で立派な地位を目指す者は、しきりに知識を得ようとしている、と述べている。

一方、戦後の45年で本質的に変わってしまったことは、日本人の羞恥心であると、次のように指摘している。「それ(羞恥心)は、ザビエル時代にも彼が日本に到着した時も正しく日本人の特徴であった。しかし、今の若い世代には以前はなかったような厚かましさが共存している。この厚かましさは、大昔から日本人の気質の中にあっただけの羞恥心とは対照的である。」と。

羞恥心を失った若者は、ズリ下ったズボンや格好良しとする退廃的ファッションに身を包み、飽食時代を繁栄してか路面に車座となって飲食し、食べかすをそのままにして立ち去り、バスの座席は鞆を置く処と感違っている学生を度々見かける。

教育界では現在、個性の尊重が盛んに叫ばれているが、私には、個性以前に公共性、つまり日本人にとって恥を知ることが大切であると思われてならない。生きる力を育てるべきとの大合唱が続いているが、何が羞恥心を失わせたのかについて確たることは言えないが、羞恥心を失わせた責任は、我々にも大いにあるだろう。新しい教育改革が叫ばれている中、失われた日本人の素晴らしい特質を復活すべく、我々教育に携わる者が一丸となって取り組みたい。

### 身近な足元から



栃木県中学校長会副会長  
氏家町立氏家中学校  
校長 君島 由彦

中学生の生活などについての調査は、様々な研究機関や学識者などが行っている。それなりに参考になることは多いが、なにかしっくりしない面もある。調査項目や内容、調査方法などに違和感があるのではなく、身近なものに感じないという受け手側の持ち様にあるのだろう。

事実、報道や出版された各種の情報を配布したときと、本校にかかわるものを配布したときは教職員はもちろんのこと、保護者の反応がかなり違ってくる。当然ながら、それだけ身近なものとして受け止めるからであろう。

このことは、意気込みを含めて、自ずから取り組み方に違いが出てくるものと思われる。

そこで、本年度6月に31項目について、全学年(各学年2学級抽出)にわたって行った調査の内、非行に直接かかわってくるであろう項目の一部を紹介したい。詳細については略。

各項目では「まったくそう思う」から「そう思わない(たいしたことではない)」の4段階について聞いた。

数値は「たいしたことはない」と「少し悪い」を合わせたものである。

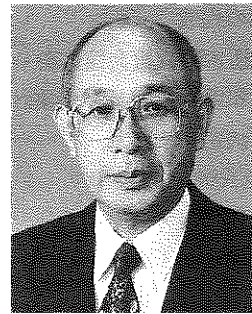
○飲酒	全体 34.6%	3年 42.4%
○夜間徘徊	全体 42.4%	3年 64.1%
○異性と二人での宿泊	全体 49.0%	3年 70.2%
		(男女ほぼ同数)

こうしたデータ(数値に惑わされないように配慮)を基に、期末PTAで話したところ驚きの声があった。「自分の子供は違うであろう」という意識の変革に多少なりとも役立ったように思う。

教職員においては、8月に行う地区別懇談会の資料に使うという積極的な動きとなった。

本稿は、各学校独自の調査の必要性を強調するでもないし、ましてや本校の調査の効用について紹介するでもない。校長としては、教職員や保護者にまずは身近な足元を見詰めさせるようにし、切実感をもって取り組むように配慮していくことが大切であろう、ということである。

### 退任にあたって



前栃木県中学校長会副会長  
前鹿沼市立東中学校  
校長 鈴木 節也

一年間、県中学校長会副会長として、大変お世話になりました。微力な私を、陰に陽に支えていただき、無事、大役を務めることができました。これは、会長さんはじめ、役員の方々、会員の各校長先生方、事務局担当の皆様方のお陰と心から感謝申し上げます。特に、会長さんの任務を補佐しなければならない立場にありながら、逆に教養を頂くことが多く申し訳なく思っております。

さて、退任にあたって、校長会の役員として、また、校長として、果たさなければならない仕事や山積しているにもかかわらず、十分ではなかったことに、今、大いに反省しているところです。その一つとして、学校改革の時といわれている

にもかかわらず、どれだけのことができたかということ。学校改革の基本は、生徒にあります。生徒一人一人の将来を見据え、豊かな心をもった生徒を育てることが学校改革の中心であります。実際、生徒の心を捕えれば捕えるほど経営は難しさを増すもの、どう対応していったらよいものかと悩まれる。どれだけ手助けができたのかを思うと腹立たしさを覚えます。

二つ目は、教員の研修体制づくりに不十分であったことです。よく、教員の世界は、「経験」「勘」「慣習」の三Kで成り立っているといわれています。このことには憤りを感じるものの認めざるを得ない部分もあります。

単なる教育技術を磨く研修にとどまらず、教員として必要な資質の向上を図る研修体制の確立がもう一歩であったことです。後悔先に立たず。今こそ、校長会が先鞭者としての役割を果たす時であろうと思えます。

最後になりましたが、会員の皆様方のご活躍と校長会が更に充実・発展いたしますことを祈念いたしまして御礼のことばといたします。

### 平成11年度 各専門部活動計画

#### ☒ 総務部

部長 須藤 光弘(宇・星が丘中)

平成11年4月26日第1回部会を開催し、役員選出、及び事業内容等の協議を行った。

#### 1 平成11年度役員

部長 須藤 光弘(宇・星が丘中)

副部長 栗田 和行(南那・下江川中)

〃 大柿 克治(栃・栃木西中)

#### 2 事業内容等協議の概要

##### ア 県中学校長会要望書案の策定

(義教振要望書への意見集約)

(教福協要望書への意見集約)

##### イ 行政当局を始めとする県内各関係諸機関への要望活動の中核的存在

##### ウ 県中学校長会の次年度の運営方針、重点目標の検討と立案

平成11年7月2日第2回部会を開催し、事業計画、県中学校長会要望書の検討を行った。

#### 1 事業計画

(1) 県教職員福利厚生事業推進協議会作成の

「教職員福利厚生事業充実に関する要望書」への意見集約(6月・7月)

(2) 義務教育振興協議会要望書起草委員会への意見集約(6月・7月・8月)

(3) 第3回総務部会  
県中学校長会要望書案策定(7月2日・8月3日)

(4) 義務教育課等への要望活動(8月26日)

(5) 知事部局、県議会関係者等への要望活動(9月)

(6) 各地区の関係機関及び関係者への要望活動(9月・10月)

(7) 第4回総務部会(9月)  
平成12年度の運営方針・重点目標等の検討

(8) 第5回総務部会(12月)  
平成12年度の運営方針案、重点目標等の案決定

(9) 理事案、協議員会にて平成12年度の運営方針・重点目標の決定(2月)

☒ 事業部

部長 齋藤雄介(河・田原中)

平成10年4月26日(月)県教育会館において専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画について協議した。

前年度の事業内容の確認と反省とに基づき、今年度の組織と事業内容について検討した結果、ほぼ、前年度の事業を継承することとなり、概ね次のように決定した。

1 役員

部長 齋藤雄介(河内・田原中)

副部長 大高義雄(宇・若松原中)

〃 竹田安男(下都・壬生中)

2 事業計画

(1) 退職後の生活設計についての研修会

ア 日時 平成10年11月

13:00~16:00

イ 会場 栃木県教育会館 3階大会議室

ウ 内容 講話と質疑

(ア) 医療保険について

- ・退職後の医療について
- ・任意継続組合員制度について
- ・継続療養制度について

(イ) 退職手当について

- ・退職手当について
- ・退職手当の算出について
- ・各種の税について

(ウ) 年金制度について

- ・退職共済年金の内容と仕組み
- ・退職共済年金の支給について

(エ) 教育福祉振興退職者部会について

- ・退職者部会について
- ・退職者部会の加入の仕方について

(オ) その他

エ 講師 栃木県教育委員会福利課長・他

(2) 道徳副読本「中学生の新しい道」の編集

日時、会場ともに未定

☒ 調査部

部長 定岡明義(宇・清原中)

1 役員を選出と事業計画の作成

平成11年4月26日、栃木県教育会館において調査部会を開催し、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定しました。

(1) 役員

部長 定岡明義(宇・清原中)

副部長 久保田 宏(河・本郷中)

〃 堀田千之助(芳・中村中)

(2) 事業計画

ア 全日中教育情報部との共同調査事業である「中学校教育に関する調査」の実施

イ 県中学校長会及び各専門部活動に必要な調査と資料の提供

ウ 他都道府県中学校長会及び各教育関係団体との連携・協力並びに資料・情報の交換

エ 各種調査結果及び資料収集、情報の提供配布

2 「中学校教育に関する調査」について

本調査、全日本中学校長会教育情報部より共同調査を依頼されたもので、5月中に実施しました。調査にあたっては、県教委義務教育課及び高校教育課等に資料の提供をお願いし、ご協力をいただきました。

調査項目中、「一人当たりの担当教科数、免許外教科担任(無免許担任)の状況」等については、県内全中学校(175校)の悉皆調査を要するため、本調査部員を通じて各中学校にご協力をお願いいたしました。集計にあたっては、各地区の調査部の校長先生方に特段のご苦勞をお掛けしました。ご協力を厚く感謝申し上げます。

なお、調査活動の日程は概ね次のとおりです。

4月下旬 各地区調査部会長あてに調査依頼

5月中旬 県教委に資料の提供等調査依頼

5月末日 各地区から調査集計表の提出完了

6月中旬 全日中校長会あてに調査票の送付

☒ 研修部

部長 大垣龍夫(宇・宮の原中)

1 平成11年度組織

部長 大垣龍夫(宇・宮の原中)

副部長 上野 忠之(芳・真岡東中)

〃 深谷 哲(那・佐久山中)

2 平成11年度研究活動計画

(1) 研究テーマ

ア 主題 「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」

イ 副主題 「生徒一人一人を生かした教育活動の推進」

(2) 主な研究活動

ア 第21回栃木県中学校長会研究大会の実施

今年度の栃木県中学校長会研究大会は、平成11年9月9日(日)に開催されます。研究テーマについては5年継続の最終年度になります。講演は元全日本中学校道徳教育研究会長、召田照明先生を予定しています。各地区では研究テーマに沿って、熱心に研究を推進していますが、今年は次の3地区が研究の成果を発表します。

◎ 学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育

～創意工夫を生かした教育課程の編成と運営～(那須地区)

◎ 教育相談の充実

～スクールカウンセラー・心の教室相談員との連携を中心に～(佐野地区)

◎ 教職員の意識改革と資質能力の向上

～インターネットを中心としたマルチメディア機器を活用した活動の工夫を通して～(芳賀地区)

イ 研究集録の作成

① 第21回研究大会内容の編集

② 各地区研究内容の編集

☒ 広報部

部長 橋本忠良(河・南河内中)

平成11年4月26日に下記のように新役員を決定するとともに、平成11年6月21日、南河内中学校にて第1回広報部会を開催。協議の結果、次のように本年度の事業計画を構想した。

1 平成11年度の役員

部長 橋本忠良(河・南河内中)

副部長 五味淵 芳章(芳・中川中)

〃 堀江昌子(宇・瑞穂野中)

2 今年度の会報発行の構想

(1) 会報は、2回発行する。

・第91号、第92号

・内容は、ほぼ従来どおりとする。

・「地区だより」については、「活動計画」「活動報告」を報告する地区が固定しないように、年度ごとに入れ換える。

・後期号(92号)には、各専門部の活動結果報告を掲載する。

(2) 発行予定日

・第91号 平成11年9月13日ごろ

・第92号 平成12年2月10日ごろ

(3) 各号の内容について

① 第91号

- ・役員所感 ・各専門部の活動計画
- ・退任に当たって
- ・関中校長研究協議会(長野)の参加報告
- ・新任校長の一言
- ・各地区だより ・私の朝会訓話
- ・今年度、県で開催される大会について

② 第92号

- ・役員所感
- ・全日本校長会研究協議会(北海道)の参加報告
- ・研究学校の発表概要
- ・専門部の活動報告
- ・地区だより ・海外研修視察記

3 その他

読みやすい会報の在り方について話し合ったが、今後の課題とすることとした。

☒ 進路対策部

部長 土屋 忠直 (小・乙女中)

平成11年4月26日(月)県教育会館において専門部会を開き、本年度の組織及び年間事業計画について協議し次のように決定した。

1 組織

部長 土屋 忠直 (小・乙女中)

副部長 榎 渕 正 一 (宇・鬼怒中)

〃 西 沢 松 男 (安・葛生中)

2 本年度の事業計画

中心テーマ「中学校進路指導の適正な推進と高校教育改革への提言」

(1) 第1回研修会

ア 期 日 平成11年7月16日(金)

イ 場 所 県教育会館

ウ 内 容 ・昨年までの本部会の報告  
・高校教育制度に関すること  
・高校入学者選抜に関すること  
・私立高校の教育・入学者選抜に関すること  
・中高一貫教育の課題について  
・情報交換

(2) 第2回研修会

ア 期 日 平成11年10月

イ 場 所 県教育会館

ウ 内 容 ・私立高校の教育・入学者選抜について私立中高連合会代表、中学校会役員等出席予定

(3) 第3回研修会

ア 期 日 平成11年12月

イ 場 所 県教育会館

ウ 内 容 ・県立高校の教育改革・入学者選抜についてのまとめ  
・平成11年度入学者選抜について  
・平成10年度卒業生の進路状況について

☒ 生徒指導部

部長 柴 田 一 男 (上・東原中)

1 事業計画の概要

(1) 第1回部会研修会

平成11年4月26日(月)

県教育会館 13:30～

(2) 第2回部会研修会

平成11年10月26日(火)

県教育会館(1F中会議室) 10:00～

2 第1回部会研修内容

(1) 役員選出

部長 柴 田 一 男 (上・東原中)

副部長 澤 田 勲 (安・佐野北中)

〃 中 山 正 孝 (宇・雀宮中)

(2) 平成11年度生徒指導部研究課題

「いじめ問題及び学校不適応生徒への適切な指導と対応」

(3) 研究の方向

昨年に引き続き、学校教育における最重要課題であるいじめ及び学校不適応生徒の問題解決のために、日々研究実践されていることについて、特に下記のア～オを中心に各校、または、地区における実践事例を持ち寄り、情報交換を行うことで今後の課題解決に役立てる。

ア 課題解決のための校内指導體制の在り方と早期発見、早期対応のための具体的な取り組み

イ PTAや地域との組織の整備状況と具体的な活動内容

ウ 各種専門機関との連携の在り方と具体的な実践事例

エ 特色ある教育活動による課題解決のための積極的な取り組み

オ 「心の教室相談員」の連携の在り方と具体的な実践事例

3 第2回部会研修内容

(1) 課題研修 実践事例に基づく研究協議

(2) 平成12年度用県版「生徒手帳」編集会議

(3) 情報交換

☒ 修学旅行部

部長 青 柳 宏 (宇・陽西中)

平成11年4月26日(金)県教育会館において専門部会を開催し、本年度の組織及び事業計画を次のように決定した。

1 組織

部長 青 柳 宏 (宇・陽西中)

副部長 佐 藤 忍 (上・大沢中)

〃 中 田 昌 宏 (栃・栃木東中)

次 長 真 壁 敏 夫 (宇・姿川中)

監 事 長 和 義 (下・桑中)

委 員 添 田 剛 夫 (芳・逆川中)

〃 赤 羽 和 夫 (足・毛野中)

2 本年度の事業概要

(1) 修学旅行の改善向上を図る活動

① 安全性の確保

② 教育性の充実

③ 経済性の適正化

(2) 全員参加の原則確立のための活動

(3) 学校現場と直結した実践活動

上記諸活動の実現を期し、本部会は関東5県の校長会で組織する「関東地区公立中学校修学旅行委員会」(関修委)に加盟し、更に全国修学旅行協会と一体となって、次の活動を実施している。

① 新幹線利用希望調査(専用列車) (7月19日)

② 修学旅行費等の国庫補助金増額の陳情 (8月5日)

③ 修学旅行実施状況調査・研究 (8月31日)

④ 輸送計画作成(他県との調整) (9月17日)

⑤ 研究発表会等の開催(本県で開催) (11月26日)

3 第1回部会研修会

(1) 期 日 平成11年6月17日(木)

(2) 場 所 バレスホテル

(3) 内 容 研究発表会の持ち方について

ア 大会の骨子・基本計画・組織等について

イ 大会要項・紀要等について

ウ その他

※ 研究発表会はプラザインくろかみを会場に開催

第51回関東甲信越地区  
中学校長会研究協議会  
長野大会に参加して

事務局長 落 合 延 行 (宇・泉が丘中)  
長野大会が6月9日・10日・11日の3日間、善光寺の門前町として親しまれている長野市で1都9県から1200余名の中学校長が参集して開催された。

昨年の千葉大会の成果をふまえ「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」(第5年次)を大会主題として、「教育課程の実施」「心の教育の充実」「学校経営の改善」について全体協議会並びに分科会において熱のこもった研究協議が行われた。

第1日の総会で新役員が紹介され、第2日の開会式では、長野県の戸谷高大会委員長から「生きる力の育成を基本とし、生涯学習の基礎的な資質の育成、個性を生かす教育、基礎的・基本的な内容の徹底等に改善の視点を据えて、校長のリーダーシップの下に、特色ある教育課程の編成を進めつつ、自校の教育課題の改善を図ろう」との挨拶があった。つづいて文部省の辻村哲夫初等中等教育局長から「当面する初等中等教育上の諸問題」として新指導要領及び中高一貫教育等について説明があった。

全体協議では、長野市立篠ノ井西中学校長佐野昌男先生から「激しい社会の変化に対応し、心豊かにたくましく生きる力を育む中学校教育の創造」を視点とした提案がなされた。

分科会では、9つの分科会において各地域、学校の特色を生かした実践活動の発表があった。第7分科会では本県の大澤正校長(栃木・皆川中)が「豊かな心を育む教育環境の整備と活用」の発表を行い参会者から共感的に受けとめられ好評を博した。

アトラクションでの青木中学校の生徒による義民太鼓の熱演、時間が経つのを忘れ聴き入った記念講演、真心のこもった長野の先生方の対応等、2年後の栃木大会に向け学ぶこと多く意義ある大会であった。

新任校長の一言

新任校長として

小山市立大谷中学校長  
大出 尚美

4月に赴任して、始業式・入学式等の学校行事、修学旅行、宿泊学習、職場体験学習、合唱コンクール、各種球技大会応援等を通して、先生方の緻密な指導ぶりに生徒の素晴らしい活躍を目の当たりにして、本校に奉職して心から幸せを感じている毎日です。

放課後、2階の校長室の窓から広い校庭を眺めると、桜の葉がいつの間にか濃い緑色になり、沢山の生徒たちが、野球、サッカー、陸上競技、テニスなどの部活動で校庭狭しと活動しています。

さて、21世紀に行われる過去最大の教育改革と言われている「生きる力」と「ゆとり」をキーワードとした新学習指導要領が告示されました。

私も新しい学校教育の実践に向けて、全教職員の能力を十分に引き出し、生徒一人一人が生き生きと活動できるよう、校長としてリーダーシップを発揮していくことの職責の重さを感じています。

最後に、これからも新任校長としての初心を忘れず、特色ある学校づくりの推進のために、一層努力していきたいと考えています。

本校の登下校事情

栃木市立寺尾中学校長  
鈴木 善雄

新任校長として早、4か月が過ぎようとしていますが、毎日が新しい勉強の連続です。

本校は栃木市街地より西に10km、山と小川に囲まれた自然豊かな地に、159名の生徒が通う小規模校です。

現在学校の北側に対向4車線の道路が工事中です。近い将来ここが開通すると、道路事情が良くなり、自動車はきっとスピードを出すでしょう。児童・生徒が横断するには、道幅が広くなり、より危険性が増すでしょう。そして、中学生の自転車乗りのマナーの低さから、事故が発生するのは、容易に予想されるのです。

度々、朝会や打ち合わせで生徒や先生方に、事故を起こさぬように、事故に遭わぬようにと話しています。そして、「君達は、親や家族はもちろん本校職員にとっても、かけがえのない存在である。命を大切にするように。」と強く訴えています。

常に交通事故の危険性と隣り合わせの通学路を通う生徒達。今日も一台の自転車が、ダンプカーを後ろに従えて登校しています。

校長室の窓

茂木町立逆川中学校長  
添田 剛夫

茂木町の中心より南に10km、南から北に流れる逆川沿いに、生徒数145名の本校があります。

平成9年8月に新築されたもので、内部は板張りで廊下も広く、吹き抜け部分あり、随所にベンチありとゆとりとくつろぎのある造りです。

校長室は玄関脇にあり、玄関に面した東側と南側が窓で、ここからは玄関を出入りする全てのひと、校庭に行き来する全ての生徒を見ることができます。目が会うと笑顔で挨拶する生徒たちに、自分勝手に心の交流を感じています。また、窓を開けば、教室からは張りのある先生の声、それに応える生徒の発表・談笑の声が聞こえます。

私はこの窓から、緑連なる山々や花咲く野草、雲の動き、時折飛び込んでくる昆虫、人々の動きを眺めながら、学校経営はどうあるべきかを思案しています。この豊かな自然環境と優れた学校環境並びに熱心な先生方と協力的な地域の方々の力を生かし「良き社会の形成者」となるべき生徒を育成したいと考えています。

リーダーシップの重み

大田原市立野崎中学校長  
岡本 允久

「校長は学校の最高責任者である」、「校長のリーダーシップを発揮せよ」新任校長研修会でこの言葉を耳にするたび、希望と不安で揺れ動いている私の心にズンリと感じるものがありました。

4月1日に赴任して以来、緊張の毎日でしたが、

地区だより

研修計画の概要

河内地区

平成11年度の河内地区の校長会は、1名の新任校長を迎えてスタートした。第1回の校長会は4月6日に開き、研修計画や役割分担が提案され承認された。その研修計画の概要は次のとおりである。

- 4月6日 組織づくり、研修計画、全日中、関プロ大会等参加者調整
- 4月16日 宇都宮との合同研修、組織、研修計画の調整、情報交換
- 6月25日 宇河中・高校長連絡協議会①
- 7月6日 研修テーマの研修、情報交換会
- 11月2日 研修テーマの研修、情報交換会
- 11月30日 宇河中・高校長連絡協議会②
- 2月4日 反省、次年度の研修計画の検討、情報交換

研修計画の概要

芳賀地区

芳賀郡市中学校長会は、5名の新会員を迎えてスタートした。茂木中学校長の刑部会長を中心に、中学校が抱えている課題を中心に、和やかな雰囲気の中にも真剣に取り組んでいる。研修の中では、毎回情報交換の時間を確保している。率直な情報の交換であり、これも有意義な研修となっている。計画された定例の研修では、「中学校経営上の課題を究明し、校長としての資質の高揚を図る」という目的を掲げ、下記の計画に従って実践している。

- 第1回 「総会・研修計画立案」
- 第2回 「教職員の意識改革と資質能力の向上」

提案者 市貝中 斉藤校長

始業式や入学式が終了した頃から、少しずつゆとりが生まれ、活気のある、頼もしい先生方に励まされ、支えられながら、校長としての任務をどうにか果たすことができました。

紫陽花の咲くこの季節、個性豊かな教師集団の中に入り込み、ふだんの会話を大切にしながら、信頼関係づくりに努力している毎日です。

「親を見て子は育つ」と言われるように、リーダーを見て教師が育ち、教師を見て生徒が育つものと考えます。もちろん、そこには信頼関係が不可欠であり、リーダーが信用しなければ、当然信用されることもありません。

学校は、リーダーの如何で決まり、リーダーの采配で育ことを心して、あまり背伸びをせず、あたりまえのことを着実に実行していきたいと思えます。

中学校に赴任して

烏山町立境中学校長  
岡 誠一

小学校長から2年ぶりに中学校に戻り、学校全体が順調に船出し、生徒・職員もやる気に満ち、その動向は中学校の模範のように思われた。しかし5月連休明け頃から、これまでとは異なり、学校全体に何となく活気がなくなってきたことを痛切に感じた。

そんな時に、関東大会地区予選があり、サッカーの試合終了後、負けてしまったが「良く頑張ったね、良い試合だったよ」と言うと3年生から「校長先生、まじでそう思いましたか。」と思わぬ質問があった。そこで間髪を入れずに「専門家が見たのだから間違いないよ。本当に素晴らしい試合だったよ」と強調すると「ああ良かった、実は～」と練習の工夫を長々と述べ、負けたにもかかわらず喜びの声と満足感に満ちた表情を表したのです。数日後の職員打ち合わせや朝礼等で「どんな小さな事でも自信を持ってやろう。必ず何とかなる」と強調しました。

現在は「自信の裏づけとは何だろう」と考え、さらに「真のリーダー」とは何だろうと考えながら焦らずゆっくと勉強していこうとしているところです。

第3回 「生徒指導の問題点と今後の課題」

提案者 山前中 田所校長

第4回 「中学校と児童相談所の連携の在り方」

講師 中央児童相談所 平本 満先生

第5回 「危機管理と校長の権限拡大」

提案者 中川中 五味渕校長

第6回 「研修のまとめと反省」

研修活動の概要

小山地区

小山市中学校長会は、小山三中渡辺紘夫会長のもと11名で活発な研修活動を推進している。本年度は、定例の研修会、県外教育事情調査はじめ下記のような活動を行う予定である。

- 1 課題研修
  - (1) 研究テーマ「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる学校経営」(体験活動を生かして)
- 2 県外教育事情調査
  - (1) 5月20日、東京都墨田区立墨田中学校
  - (2) 10月4日、5日 三重県嬉野中学校
  - (3) 研修内容「総合的な学習の時間」の在り方
- 3 小学校長会と合同で
  - (1) 定例研修会：情報交換等
  - (2) 学校経営実践事例発表：2年目の校長から
  - (3) 教育懇談会：市教育委員と、現在抱える様々な教育的課題に関する懇談会の実施
  - (4) 講演会：
    - ① 先輩校長に学ぶ(川島作造前岩舟教育長)
    - ② 教養講話(白鷗大塚成彦教授)
- 4 市内高等学校長との懇談会
 高校入試や生徒指導に関する意見交換

不登校の解消を目指して

塩谷地区

平成11年度の塩谷地区中学校長会は、2名の

新会員を迎えスタートした。

平成11年度の塩谷地区の研修は、不登校生徒の急増に対応し、不登校の解消を目指す対応策を再検討することにした。

研修テーマ

「不登校への対応」

研修の進め方

不登校の実態、背景及び意識などを再確認するためのアンケート用紙を作成し、生徒、保護者及び教員を対象として調査する。

研修計画

- 1 4月19日 総会、研修計画作成
- 2 5月24日 アンケート計画作成
- 3 6月17日 アンケート用紙作成
- 4 7月27日 アンケート集計
- 5 8月17日 アンケート考察
- 6 10月5日 研修についての研究協議、懇談会
- 7 1月18日 研修のまとめ
- 8 2月25日 平成11年度の反省と12年度の計画

このほか、小中合同による研修会を年4回計画し、研修を進めている。

研修計画の概要

足利地区

足利地区中学校長会(11名)は、新会員1名を迎え、第一回の研修会を4月に発足、本年度の研修計画や研修テーマについて検討し、次のように決定した。

- 4月 研修組織、研修計画
- 6月 研修計画にもとづく研修  
学校経営の諸問題(サービスの厳正)
- 7月 安佐地区との交流研修  
・県及び関プロ大会について
- 7月 中高連絡会(情報交換)

8月 学校経営の諸問題

8月 講演会開催

・教育改革について

12月 小中合同研修会

・同和教育研修

2月 本年度の反省と次年度の計画

このほか定例校長会のあと、校長の情報交換の場を設定、中学校間の連絡を密にしている。

関プロ栃木大会を13年度に控え、より計画的に研修を推進していく必要がある。

平成11年度の研修計画

南那須地区

南那須地区中学校長会は1名の新会員を迎え、下江川中学校長の栗田和行会長という昨年度とほとんど変わらないメンバーでスタートした。会長を中心に中学校で抱えている様々な課題について

和やかなうちにも真剣に研修に取り組んでいる。

研修テーマは平成13年度関プロ栃木大会の提案を視野において新しいものとし年度計画で研修を深めることにした。

研修テーマ

「集団の一員としての自覚を高め、豊かな自己実現を図る教育」

研修計画

- 1 4月2日 組織編成 研修計画
  - 2 5月13日 研修テーマに基づく研修等
  - 3 8月19日 研修テーマに基づく研修等
  - 4 10月1日 研修テーマに基づく研修 まとめ
  - 5 2月25日 本年度の反省、今後の課題
- このほか、小中学校合同による研修会を年3回計画し、実施している。

私の朝会訓話

対話の中で人生を語り、生き方を考えさせたい

足利市立協和中学校長 佐藤 勇治

校長になって、「あいさつ」の多いことに四苦八苦しているのが現状であります。先輩の校長より「校長は挨拶で勝負し、教諭は授業で勝負するのだ。」と教えられました。だが、「あいさつ」でどのように勝負するのか悩み苦しんでおります。

本校では、毎月第一水曜日に朝会があり、校長講話となっております。朝会講話は、直接に生徒を教育する大切な機会になっておるので、私は準備をして臨むようにしております。その月や季節や学期、そのときの学校や社会の実情などをいろいろ勘案して、その時その場に合った話をするものと考えております。心がけていることは、1)社会の動きに合った話題であること。過去の話よりは現在の話の方が生徒に聞いて貰えるのではないかと考えている。現在の話は評価の定まっていないものであると、個人的な好みや偏見は避けて、公平な目で見た分かります。生徒の社会性を育むのに役立つものになりたいと思う。そのためにも、常日頃の社会に敏感でありたい。

2)わかりやすく、短く、簡潔にすること。中学生に長話は禁物です。焦点を絞った、生徒が具体的に理解できるような話にしたいものです。校長が生徒と対話をしているような講話にしたいものです。

3)今の中学生に考えさせる話題にしたいものです。TV、ラジオ、新聞のニュースを校長の感覚で捕らえ、自分の人生観を語るようなつもりで臨みたいと考えております。気取らないで素直に自分の人生を語る校長講話にしたいものです。そして、生徒から「今日の話は良かった、悪かった」とすぐに反応のある話がしたいものです。校長と全生徒の心の交流が図られる、楽しい朝会講話を創造して行くことに努力して行くつもりです。

校長の話には、教育理念や人生哲学が必要であり、人柄や人間味のあるものにするためには、日頃から校長としての人生修行が課せられておると考えております。

お知らせ

栃木県で開催の全国及び関東ブロック研究大会について

I 第28回

全日本中学校特別活動研究会

栃木大会（この大会は、夏休み中の8月19日（休）～20日（金）に開催されたものです。）

1. 大会主題

「生きる力をはぐくむ あらたな特別活動を求めて」

2 期 日

平成11年8月19日（木）

8月20日（金）

3 会 場

鬼怒川温泉グリーンパレス

4 日 程

・第1日（8月19日）

10:00～10:30 開会式

10:30～11:00 基調提案

11:00～12:30 講演会（※）

13:30～16:00 分科会

※ 講演会～「これからの学校教育と特別活動の役割」

ー特別活動の再構築と総合的な学習の時間の創造ー

（講師～文部省初中局教科調査官

森 嶋 昭 伸先生）

・第2日（8月20日）

9:30～11:30 パネルディスカッション（※）

11:30～11:40 閉会式

※パネルディスカッションのテーマ

「新しい学習指導要領と今後の特別活動」

パネリスト：杉田 儀作（前埼玉大学講師）

原口 盛次（元全日本特活研

究会会長）

高橋 哲男（文教大学教授）

渡辺 泰宏（県中学特活研究

会顧問）

II 第44回 関東中学保健体育研究協議会 栃木大会

1 大会主題

「生涯にわたって、意欲的に運動に取り組む生徒の育成」

～生徒一人一人が課題意識をもって臨み生き生きと活動できる授業の展開～

2 期 日

平成11年10月15日（金）

10月16日（土）

3 会 場

第1日（10月15日）

・教育会館、大ホール

・宇都宮市立陽北中学校

第2日（10月16日）

・コンセール

・教育会館

4 日 程

第1日（10月15日）

10:00～11:00 開会式・表彰式

11:00～12:00 特別講演会（※）

13:30～14:20 公開授業

14:20～16:00 分科会

※「これからの部活動の在り方」

講師～西 順一先生（宇大教授）

第2日（10月16日）

9:30～11:45 分科会

11:45～12:00 閉会式

5 公開授業の予定

選択制 2年 男女共習 剣道

2年 男子 サッカー

2年 女子 バスケ

保 健 3年 男女（病気の予防）